

サビエル生誕五百年



巡礼の道

138

藤屋 侃士  
(下松市幸ヶ丘)

## モンの村の生活

モン族は故郷の中国では苗（ミャオ）族と呼ばれる農耕民族である。タイに住むモン族も農耕で生活を営む。

タイ政府は彼らが共産化した隣国の影響で共産ゲリラ化するのを恐れて低地定住策を進めた。

第二次大戦でラオスに住んでいたモンの多くは難民となり、一部がタイ北部の山岳地帯に住むようになる。

こうして誕生した低地のモンの村の一つがセーンサイ村だ。住民は約七百五十人、この村の家にホームステイ

させてもらった。

タイ政府が低地に住むようにモンに配分した土地は住宅地と一世帯当たり一ライ（四十畝四方）の農地である。

子どもが多く、一世帯七、八人と家族の多いモンの人たちにとつて一ライの農地だけでは食べていけない。最低五ライは必要だ。

このため仕方なく今まで住んでいた山の畑に通って農業を営んでいる。

最初は十キロ前後離れた山の畑に徒歩で通

ていたが、今はほとんどの人が「イト」と呼ばれる耕運機を改造した車で通う。

しかし往復に時間がかかるので山に仮小屋を建て、そこに宿泊しながら農作業をしている。それでも農地はタイ農民の十分の一ほどで、これでは豊かな生活は難しい。

イトで近くの山の畑に連れて行ってもら

れる。

村を歩いて垣根や塀がないのに気づいた。食事中でも入り口から近所の人々が平気で家に入ってくる。すると当たり前のように「食事はすんだか？」と聞く。「まだ」と言えば食事を勧める。隣人との心の垣根がない。

たまたま泊まった日に隣の家に新しい耕運機が届いた。翌朝、朝食が終わると主人はすぐ隣家に向き、近所の男性と一緒に耕運機をイトに改造する作業をした。

「共生」がごく自然にされている。貧しいから互いに助け合い、分け合うことが当たり前ののだろうか。

モンの人たちの生活から、豊かさとは何かと考えさせられた。（元山口放送取締役ラジオ局長）

耕運機を改造した「イト」に乗る人たち



モンの平均的な家

床はなく、ほとんどが土間



タイは暖かく、果物は豊富。果物の栽培などとの複合農業が今後の課題だとシャンティ山口の佐伯事務局長は言わ

暖かいタイの豊富な果物

